

ようこそ 大阪自治労連へ!



医療部会が開催した新入職員歓迎交流会
(4月10日・岸和田市「いよやかの里」)

この春、大阪府下の自治体職場にたくさんの新入職員が配属されました。大阪自治労連は、新入職員のみなさんを心から歓迎します。大阪自治労連の労働組合に入って、住民のために働きがいのある職場を、いっしょにつくりましょう。

住民のために 働きがいのある職場をいっしょにつくろう!

仕事でも、生き方でも

人とのコミュニケーションを

大切にしたい

大阪市労組

宮地 絵美さん

(ケースワーカー
住之江区保健福祉センター)



福祉のボランティア 体験が原点に

高校時代に福祉のボランティアを体験したことが、いまの自分の原点になりました。「人の世話をすることにやりがいを感じたんです。手話も覚えて、コミュニケーションの幅もうんと広がったように思います。自分の気持ちをしっかり伝えることや、相手の気持ちを受けとめることを大切にしたいです」大学で社会福祉士の資格を取得し、大阪市のケースワーカーになって一年。生活保護世帯を訪問して相談に応じますが、相手は年上の人がばかりで、気をつかうこともあります。覚えなければならぬ知識も多く、保護手帳をにらみ、勉強しながら仕事をする毎日。「でも、悩みは次の日に持ち越さない性格なんです

よ、私(笑)」。自転車地域をまわり、訪問する機会を増やすように努めているうちに、「若くてパワーがある」「よく来てくれて、頼もしい」と声をかけられるようになりました。

市労組はみんな「熱い人ばかり」

就職した時、最初は大阪市労組の存在を知りませんでした。新人研修で別の組合の役員から「みんなも入っているから、とにかく加入用紙に名前を書いて」とだけ言われて、納得のいかないまま加入しました。職場に配属されてから市労組という労働組合があることを知り、誘われて歓迎会に参加。「みんな熱い人ばかりで、こちらの組合のほうが楽しくやって行けそう」と思い、別の組合の加入を取り消して、市労組に加入しま

NPTへの代表として 平和の想いを伝えるに

昨年、青年部のビッグイベント「おきプロ」(沖縄プロジェクト)に参加して、戦争や平和のことも関心を持つようになりました。「私は静岡の焼津市出身なんです、学校ではビキニの被爆のことは何も教えてもらわなかったんです。自分が生まれ育ったまちなのに、これではいけない、無関心ではダメだと思いました」。5月にはNPT(核不拡散条約)再検討国際会議への代表団の一員として、平和の想いを伝えるにニューヨークへ出発します。



大阪自治労連NPT社行チャリティコンサート(3月28日)で、代表団の仲間といっしょに、手話をつけて平和の歌を合唱しました(中央が宮地さん)